

授業研究21 4月号

5. 補充・発展教材開発の校内研修課題

②「e-ラーニングという、これからの課題」

勤務先：熊本市立出水南小学校 教諭

名前：村上浩一

□□□□、補充教材「発掘」□□□□□□□□

□補充教材について、文部科学省はこう説明している。(02年6月20日「個に応じた指導に関する指導資料」より) □□□□□□□□
「補充的な学習とは、子どもの理解や習熟の状況等に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために行う学習指導である」とし、さらに「学習の遅れがちな子どもに対しては十分配慮する必要がある」としている。 □□□□□□□□
□私は昨年まで2年生を担当していたが、低学年を担当するのは、これが2回目となる。2年生算数で「基礎・基本的事項を1つ上げよ」と言われたら、ほとんどの教師が「かけ算九九」を上げるのではないだろうか。
中・高学年を担当していると、乗除の筆算指導で九九を完全暗記していない子や繰り上がり・繰り下がりの暗算ができない子に出くわす。これは、前述の「学習の遅れがちな子ども」に相当する。これらの子への補充学習に相当な労力を費やされる。なぜなら当該学年の指導も並行して指導しなければならぬからである。

□今、低学年を担当して、実践していることは次のことだ。 □

□後手の補充指導から先手の補充指導へ。 □

□例えば、九九の学習以前に九九に親しませておくということである。後で補充指導するよりか、指導が楽になるためである。そのため、気軽に使える効果抜群の教材「発掘」が必要となる。私は1学年4クラス以上の学校での低学年担当を経験しているのだが、(低学年担任の経験豊富な)ベテラン教師がいるのにも関わらず、九九の暗唱CDを使用しているシーンを見たことがなかった。これは、やはり学校全体としての問題のような気がする。私が利用しているのは、「MOKOの99のうた」(BMGビクター)というCDだ。これを算数の時間の導入や朝自習の時間に1ヶ月程聞かせておくと、夏休み前までにほぼ100%暗唱させることができる。
□なぜ、このような簡単なことが教員間に伝達されていないのか、一重に校内研修が威力を発揮していない証左であろう。そ

